

無意味なストレステスト

ストレステストとは、EUが、福島事故を受けて導入したシミュレーションによって確認する再評価の仕組みで、テストとは言っても、実機の試験はしません。ストレステストでは地震や津波の規模を段階的に大きくしていった時に、原発の設備や機能にどのレベルでどんな影響が出るかを計算や解析で出すものです。

今回の福島原発事故では、地震と津波によって、電源が喪失し、かつ、海水冷却機能が失われ、いわゆる過酷事故に至った訳です。これを受けて、日本の原発は全て、予想される地震や津波への緊急対策工事をした、とされるので（下記記事参照）、今更、ストレステストをやる意味は全くありません。合格の結果が出るのは自明です。原子力安全委員長が「ストレステストは再稼働の条件ではない」と国会で説明しているのをTVで見ましたが、安全性向上には関係しない、ということなのでしょう。

2011/4/15、九州電力株式会社

津波により3つの機能（全交流電源、海水冷却機能、使用済燃料ピットの冷却機能）を全て喪失した場合を想定しても、炉心等の損傷防止や放射性物質の放出を抑制し、冷却機能を確保できるよう、緊急安全対策を取りまとめるとともに、信頼性向上のため更なる安全性向上対策を実施していきます。

1. 緊急安全対策（実施済）
 - （1）高圧発電機車の配備
 - （2）給水源の仮設ポンプ・ホースの配備
 - （3）使用済燃料ピットの冷却用仮設ポンプ・ホースの配備
2. 更なる安全性向上対策（今後実施）
 - （4）移動式大容量発電機の配備、1年後
 - （5）海水ポンプ及びモータの予備品の確保、3年後
 - （6）海水ポンプエリア等の防水対策、3年後
 - （7）水源タンクの津波等に対する補強、3年後

それでは、安全性向上には役立たないとしても、「安心」を得ることができれば良いではないか？という声があるかも知れません。

EUのストレステストは、電力会社が行ったシミュレーションを、各国の原子力の規制機関がチェックし、さらに、別の国の専門家などによって相互評価する、という3段階で行われます。

今問題なのは、日本の規制当局と電力事業者に対する信頼が失われたことで、テストの採点を自分でするのは、市民の立場からも、全く意味がありません。

欧州では、地震や津波の対策が十分か不明な原発があるかもしれないので、ストレステストは有益かも知れませんが、日本では無意味というより、全く馬鹿げた対策です。何の安全性向上にもならないし、安心を得ることもできません。

また、問題なのは、間違った対策をすることで貴重な時間と人材を浪費してしまうことです。例えば、7/11に発表された政府統一見解（下記記事）によると、原子力安全委員会と保安院とが無意味なダブルチェック作業をすることになり、貴重な時間と人材の浪費です。

2011/7/11 毎日新聞配信：

原発の安全性確認に関する統一見解：

新たな安全性の確認作業は（1）原子力安全委員会も関与して保安院が評価項目・評価実施計画を作成（2）電力事業者が安全評価を実施（3）その結果を保安院と安全委員会がダブルチェック、という手順で行う。

2011-7-11 記